

(一般屋内用)

F S G 4 2 7 0 0 A

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

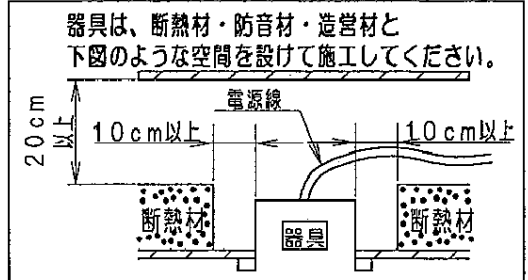
施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

△警告

- 施工は、取付方法にしたがい確実に行ってください。不備があると、落下・感電・火災の原因となります。
- 断熱材、防音材をかぶせて使用しないでください。火災の原因となります。
- 天井埋込専用ですので、壁取付や天井直付はしないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 器具を改造しないでください。感電・火災・落下の原因となります。



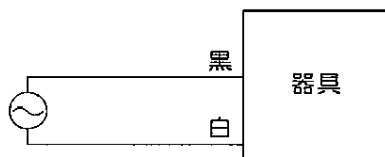
- 表示された電源電圧（定格電圧±6%）・周波数以外の電源で使用しないでください。感電・火災の原因となります。
- 蓄電池を短絡・分解等しないでください。破裂・火傷・感電・火災の原因となります。

△注意

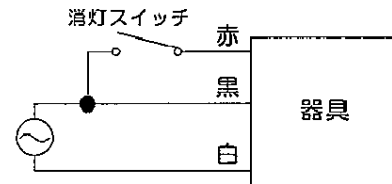
- この器具は一般屋内専用です。雨水のかかる場所、湿気の多い場所、直射日光の当たる場所、振動の強い場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。落下・感電・火災の原因となります。
- 外の風が直接当たる場所では使用しないでください。落下・破損の原因となります。
- 周囲温度は、5～35℃以外では使用しないでください。蓄電池の劣化、ちらつき、短寿命及び非常点灯しない原因となります。

配線種類

・常時消灯しない場合（2線式）



・常時消灯する場合（3線式）

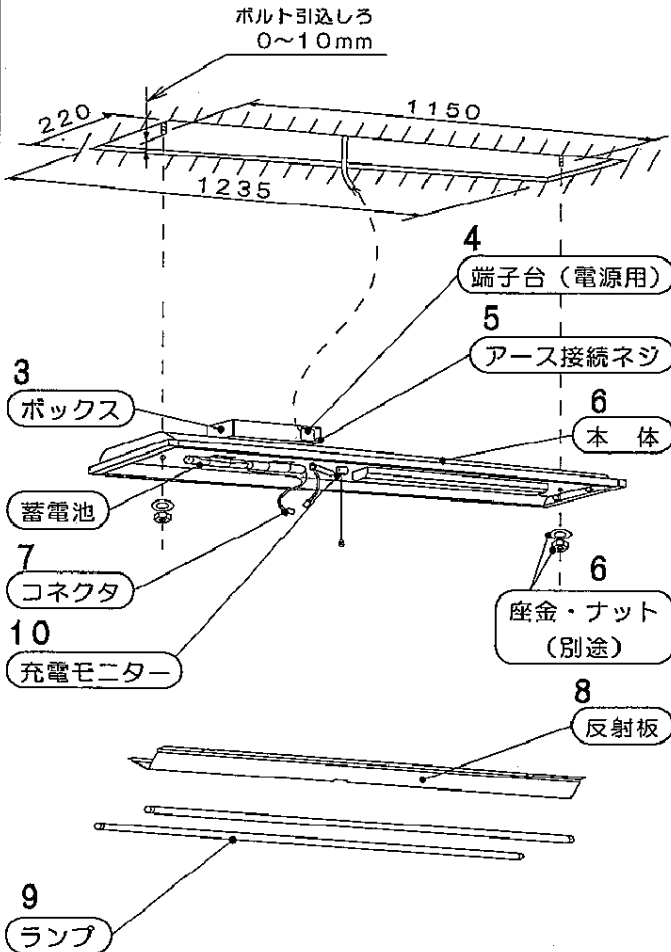


(端子台の赤色短絡線を外す)

各部のなまえと取付けかた

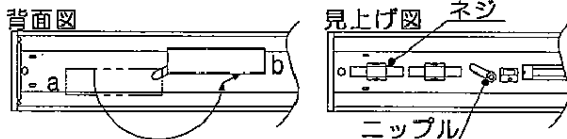
警告

施工は、取扱説明書にしたがい確実にこなしてください。
施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。



3. ボックス移動方法

- 1) ネジをゆるめる。
- 2) ボックスを持ち、下図のaからbの位置へ移動させる。
- 3) 移動後、再びネジを締め、ニップルを増し締める。



必要以上に回転させないでください。
断線する恐れがあります。

1 取付前の確認

- ・器具質量 (5.0kg) に十分に耐えるよう、取付ボルト取付部の強度を確保する。
(取付ボルトは、W3/8又はM10を使用する。)
不備があると器具落下の原因となります。

2 埋込穴の開口

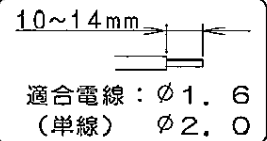
- ・埋込穴、取付ボルトを図のように用意しておく。

3 ボックスの確認

- ・ボックスがCチャンネルに当たらないか確認する。
- ・ボックスがCチャンネルに当たる場合は、ボックスを移動させ回避する。(左下図参照)

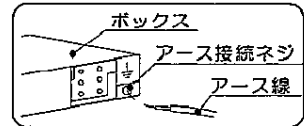
4 電源線の接続

- ・電源線を確実に差し込む。
- ・D種 (第3種) 接地工事が必要。
- ・端子台の容量は、20Aです。
接続が不完全な場合や容量オーバーの場合、火災の原因となります。



5 アース線の接続

- ・アース線をアース接続ネジに確実に取付ける。
接続が不完全な場合、感電・火災の原因となります。



6 本体の取付

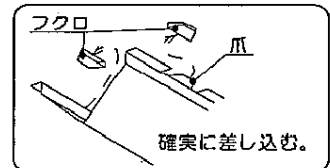
- ・本体を取付ボルトに確実に取付ける。

7 コネクタの接続

- ・常用電源通電後、コネクタを接続する。
- ・方向を合わせ確実に奥まで差し込む。
接続が不完全な場合、非常点灯不点の原因となります。

8 反射板の取付

- ・モニターランプと反射板の穴の位置を合わせる。
- ・点検SWを穴に通す。
- ・反射板の爪を本体のフクロに確実に差し込む。
取付が不完全な場合、反射板落下の原因となります。



9 ランプを確実に取付ける

10 点灯確認

- ・電源通電状態で、ランプ及び充電モニターが点灯するか確認する。
- ・点検スイッチを引き、非常点灯を確認する。
(充電モニターは消灯します)
正常に動作しない場合は「故障かな?と思ったときは」の項を参照してください。

・ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

△警告

- 器具を改造しないでください。感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。
- アルカリ系洗剤は使用しないでください。強度低下による破損の原因となります。

△注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
- 照明器具には寿命があります。設置して10年経つと、外観に異常がなくとも内部の劣化は進行しています。点検・交換してください。
※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯、年間3000時間点灯です。
- 周囲温度が高い場合、点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。

使用上のご注意

- ・この器具は自動初期照度補正機能付照明器具です。定格出力の約70%の光束を保つように設計されています。
- ・ランプ交換は器具単位での交換をおすすめします。2灯用器具の場合、1本のみでの交換では適正な明るさが得られません。
- ・電源投入後、約1秒間、100%点灯し、調光点灯します。
- ・ランプや安定器のパラツキ、経年変化等により輝度差、色ムラが若干目立つことがあります。異常ではありません。
- ・ランプや器具の汚れについては補正しませんので、定期的な清掃をおすすめします。
- ・累積点灯時間のリセットについて
タイマーセルコンは累積点灯時間を記憶しながら、点灯時間に応じた光束減衰特性に基づいて、照度補正を行っています。従って、新しいランプに交換される際、累積点灯時間をリセットする(累積点灯時間の記憶値をゼロにする)必要があります。
ランプ寿命までランプを使用される場合(自動リセットについて)
タイマーセルコンには、ランプ寿命を判断し(この時、間欠発振後、発振停止となります)、自動リセットをおこなう機能が付いていますので、自動的に累積点灯時間をリセットします。後述の手動リセットは不要です。
ランプ寿命前に新しいランプに交換される場合(手動リセットについて)
ランプ寿命前にランプ交換をされる場合、自動リセットが作動しませんので、手動によるリセット操作が必要となります。手動によるリセット操作方法は以下の通りです。
1) ランプを取り外す。 2) 電源ON(1秒以上)→OFF(3秒以上)を3回繰り返す。 3) 交換ランプを取り付ける。
手動によるリセット操作が正しく行われていれば、ランプ取り付け後の電源ON10秒後に調光開始(100%点灯→70%点灯)します。
- ・停電等による電源遮断時も累積点灯時間は保持されますので、自動初期照度補正機能は電源再投入後も正しく動作します。
- ・周囲温度が約5℃~約10℃で使用される場合、始動時に移動騒音が発生することがございますが、数秒~数十秒で解消いたします。
- ・調光機器などとの組合せはできません。
- ・蓄電池を加熱したり、火や水の中へ入れたりしないでください。破裂する危険があります。
- ・蓄電池は絶対に分解しないでください。火傷、感電の原因となります。電池内の液は皮膚や衣類をいためます。
- ・蓄電池のショートは絶対にさけてください。火災・破裂・感電・やけどの原因となります。
- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
- ・照明器具2台以下で、ほたるスイッチと組合わせて使用する場合、手動リセットが動作しない場合がありますので、スイッチは2箇所までとしてください。

保証について

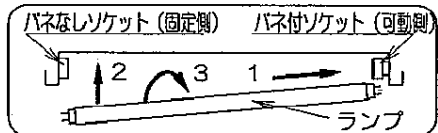
- ・保証について・・・この商品の保証期間は1年間です。但し、安定器は3年間です。
ランプ・グロー点灯管・電池等の消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について・・・保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。

お手入れ・ランプ交換

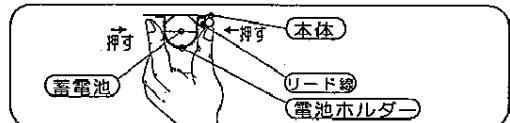
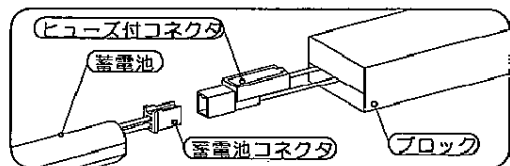
- ・器具の清掃について ----- 水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- ・ランプ交換について ----- 本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。
(ナショナル蛍光ランプをご使用ください。)
交換は2本同時に行ってください。

蛍光ランプ	蓄電池
FHF32EX-N-H	FK748 (7.2V 3000mAh)

1. 可動側にランプを押し込む。
2. ランプを固定側に差し込む。
3. ランプを90°回転させる。



- ・蓄電池交換方法 --- 下図を参照のうえ確実にこなってください。
- 1. ランプをはずす。 2. 反射板をはずす。
- 3. 蓄電池を交換する。
蓄電池コネクタを抜く。・電池ホルダーをはずし、蓄電池を交換する。
- 4. 蓄電池を取付ける。
・はずした手順と逆の手順で確実に取付ける。
・リード線を電池ホルダー外側の側面に収納する。
・電池ホルダーでリード線をさすつけないこと。
感電・火災の原因となります。
・蓄電池コネクタは確実に差し込む。
接続が不完全な場合、非常点灯不点の原因となります。
- 5. 反射板、ランプを取付ける。
・はずした手順と逆の手順で確実に取付ける。
- 6. 点灯確認
・電源通電状態でランプおよび充電モニターが点灯するか確認する。
・点検スイッチを引き非常点灯を確認する。



◆定期点検 3ヶ月に1回は、破損・変形などの外観の点検をおすすめします。
6ヶ月に1回は、必ず非常点灯持続時間（30分間以上）、
切替動作などの機能点検を合わせておこなってください。
(点検については、消防庁告示第3号および第14号に定められています。)

◆設置年月日 年 月 日

◆取付場所

◆器具No.

点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

故障かな?と思ったときは

・表に従ってお調べいただき、なお異常がある場合は、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

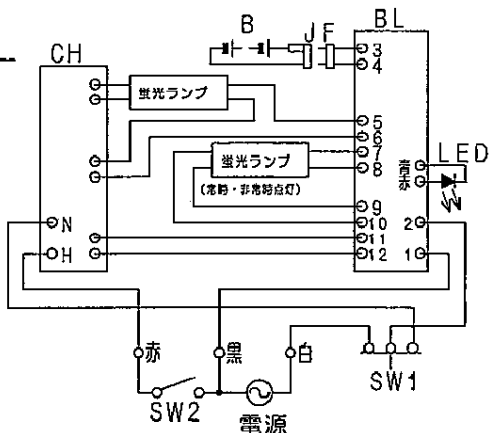
現象	考えられる原因	処置
常時、蛍光ランプが点灯しない	蛍光ランプの寿命	ランプを交換する
	消灯スイッチOFF	スイッチをONする
非常点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する
	AC電源が通電状態となっていない	AC電源を通電状態とする
短時間しか点灯しない (30分未満)	蓄電池の充電不足 (保管時の自然放電や、施工時の放電など)	48時間以上充電する
	蓄電池の寿命	蓄電池を交換する
充電モニターが点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する

器具定格・接続図

定格

ランプ		AC100V	AC200V	AC242V
FHF32EX-N-H	入力電流	0.92A	0.46A	0.39A
	入力電力	90W	90W	90W
	非常時光束	2110lm		

接続図



部品の記号と名称

- BL : ブロック
- CH : 安定器
- JF : ヒューズ付コネクタ
- B : Ni-MH蓄電池
- SW1 : 点検スイッチ
- SW2 : 常時消灯スイッチ
- LED : 充電モニター
(発光ダイオード)



Ni-MH

この器具には、ニッケル水素蓄電池を使用しております。

ニッケル水素電池はリサイクル可能な資源です。ニッケル水素電池の交換、及びご使用済みの電池の廃棄に際しては、ニッケル水素電池を取り出しリサイクルにご協力ください。

松下電工株式会社

(〒571-8686) 大阪府門真市門真1048

☎ (06) 6908-1131